

## II (参考)資源の循環利用による林業の成長産業化

Before

After

### 国土保全の推進

- 事前防災・減災対策としての治山事業の推進等
- 森林病虫獣害対策の推進

### 公的な関与による森林整備

- 奥地水源等における高齢級人工林の複層林化
- 森林整備法人による整備促進(所在不明者のいる分収林での契約変更の円滑化等)、公有林化の推進  
(モザイク施業等により、効率的に複層林へ移行)

天然生林1,380万ha

育成複層林100万ha

育成単層林1,030万ha

多様で健全な森林へ誘導

天然生林1,170万ha

育成複層林680万ha

育成単層林660万ha

適切な間伐の実施

育成

植栽

伐採

利用

### 荒廃農地の森林としての活用

- 地域森林計画編入に向けた現況調査
- 早生樹種等の実証的な植栽
- 保安林への指定と適切な整備・保全(グリーンインフラとしての活用)

### 面的なまとまりをもった森林経営

- 施業集約化に加え、共有林での施業促進、森林組合による保有・経営、生産森林組合の活性化等を推進
- 森林関連情報の整備・提供(ICT活用、林地台帳の作成等)

### 再造林等による適切な更新の確保

- 造林コストの低減、種苗生産体制の整備
- 再造林実施の適切な把握、鳥獣害対策の推進

### 路網整備の推進

- 立地条件・社会的条件の良い育成単層林での先行的な路網整備

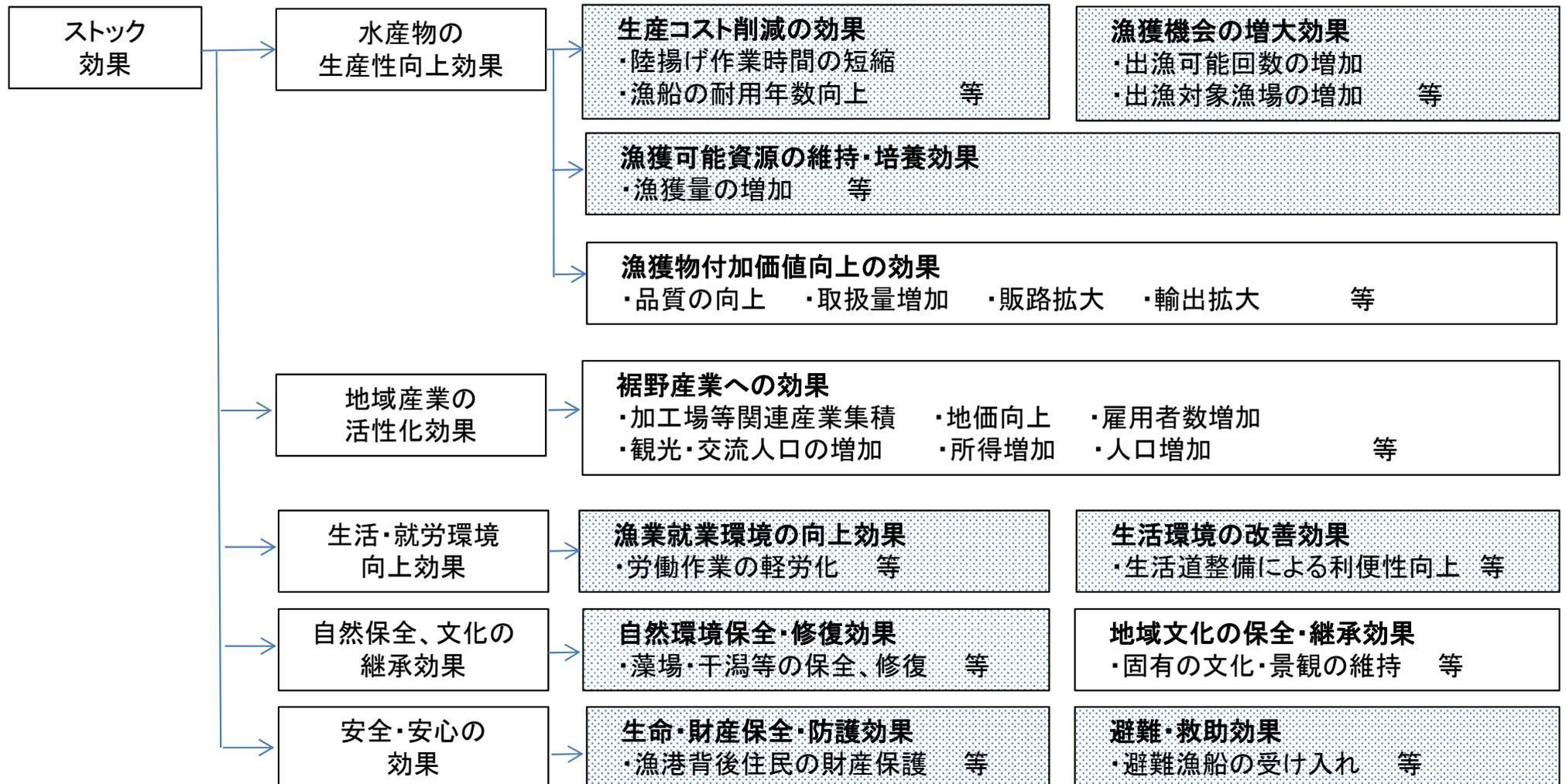
### 山村振興・地方創生

- 林業・木材産業の成長産業化、特用林産物の生産振興、自伐林家等の取組の推進
- 都市と山村の交流促進
- 地域森林の適切な保全管理

公益的機能を持続的に発揮し、将来の森林管理コストの低減にも寄与

# Ⅲ 水産業関係 ストック効果の最大化を図る社会資本整備の推進①

- 現在の漁港漁場整備事業における費用対効果分析の対象としている効果は、水産物の生産性向上効果に加え、地域産業の活性化、生活や就労環境の向上、自然保全や地域の安全・安心など幅広い分野において、算定可能な全ての効果が対象。
- 漁獲物の販路や輸出の拡大効果や加工場等関連産業の集積効果等については、事後評価において確認。

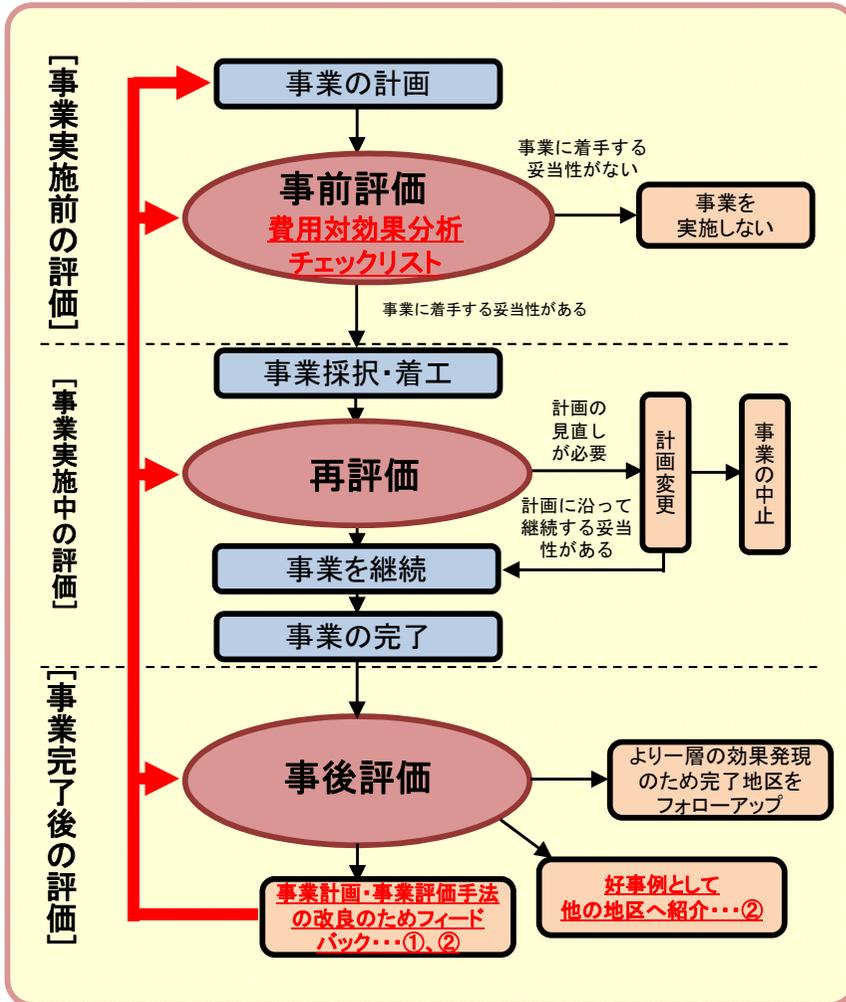


  現状、費用対効果分析の対象として算定される主な効果

# Ⅲ 水産業関係 スtock効果の最大化を図る社会資本整備の推進②

- 事業効果を高めるために、事前評価、再評価及び事後評価の一連のサイクル(PDCAサイクル)を実施。
- 事後評価における事業効果の評価手法の改善や優良地区を分析したプロセス事例などから、Stock効果の評価手法やその活用方法についてまずは検討。

## ●水産基盤整備事業におけるPDCAサイクル



## ①事後評価におけるStock効果の評価手法の改善

- 事業完了後概ね5年を経過した事業について、事業効果の発現状況等を評価し、今後の事業のあり方等に適切に対応させるため事後評価を実施。
- **事後評価**では、これまで定性的に把握していた効果についても可能な限り**定量化して事業効果を算定**。
- **評価の結果の反映等を通じ、定量化が可能な効果項目の追加や算定手法の高度化等を図る**こととしている。

## ②事例の分析

### 衛生管理型荷さばき所の整備による魚価の向上と地域の活性化【愛媛県八幡浜市】

#### 【事業の実施】

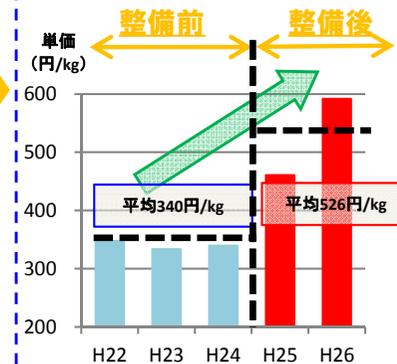
地域水産業の競争力強化を目的とした衛生管理型の荷さばき所を岸壁と一体的に整備



#### 【来訪者の増加による地域活性化効果】



**【たちょうおの単価向上効果】**  
鮮度保持がなされることで、**たちょうおの単価が55%向上**。



事業効果の評価手法の改善や優良地区のプロセス事例などから Stock効果の評価手法やその活用方法について検討